

1年10組学級通信

NO20 08/11/7

11月5日進路講演会の内容まとめ

話して下さった方・・・リクルート 瀬戸一文さん

進路、進学に関して本当にあったツライ話をしたい。A君は、数学が嫌いなので文系を選択し、何となく経済学部のある大学を受験、合格し進学したが、入学後経済学の勉強のためには微積分が必要とわかった。経済学部を選んだのも適当だったので、勉強でツライ思いをし、何とか卒業。就職したら配属されたのが経理で、やはり嫌いな数学が必要となった。だから適当な進路選択では、何も身につかず、ツライ思いをするだけである。

大学は全入時代になっており、各大学とも高校生に入学してもらうために、さまざまな募集戦略をたてている。具体的には入試を増やし、受験機会を多くしている。だから、基本的に大学を選ばなければ、楽に大学に入れるようになっている。

しかし、安易な進学は問題も発生させている。全国の私立大学の退学者数は2005年度で、55000人、これは全私立大学生の5%に当たる。ある都内の大学では、心の問題を抱える学生が4000人を越えており、これは平成15年度に比べて倍増している。いざ、大学に入学してみると、ベストの選択ではなかったと思う学生が少なくないことと関連がある。

こういう時代だからこそ、今進路について本当に考えてほしい。

大学にかかる費用もかなり大きなものである。大学入学初年度にかかる費用だが、

国公立大学	165万円
私立文系	201万円
私立理系	280万円
美容専門学校	250万円
理学療法専門学校	250万円

だから、深く考えないで進路選択をし、他の方向に進路転換をすると、これだけの費用が無駄になる。

学部選びのポイントは、

- | | |
|----------------|----------|
| ○カリキュラム、学び方 | ○取得できる資格 |
| ○学校、学部の規模 | ○学校の歴史 |
| ○教育理念 | ○周辺環境 |
| ○就職に向けてのサポート体制 | |

などである。

何を学ぶのか、何が身につくのか、名称だけではわかりにくい学部や学科も増えているので、気をつけてもらいたい。同じ名称の学部系列でも、各大学ごとに中身が大きく違う場合もあり、気をつけたい。国際関係学部など、語学中心の場合もあり、そうでない場合もあって、大学ごとに内容が大きく違う。

学校の違いというのは、偏差値の違いだけではない。もっと情報を集めて比べてみる必要があるのではないか。

ここまで述べてきたようなことがあまり考えられていないことが、就職できない大学生の悩みとつながっていると思う。安易な大学、学部学科選び→身につかない大学生活・目的の不明確な大学生活→なかなか就職が決まらない状況。現実就職しやすいといわれた今春の卒業生でみても、何社も内定が取れた人と、まった取れない人に別れていた。

【まとめ】・・・進路選択の心得

- 何のために進学するのか、世の中に出るのか考えよう。
- 大学や学校の情報を集め、比較しよう。
- 実際に行って（やって）確かめよう。
- そして、何より努力することだ（自分の目標を実現するための、高校生としての学習）。